

CSR Outline 2020

Corporate Social Responsibility Report



ザ・パックフォレストマーク
ザ・パックの環境基金と
森林保全・植林活動のマークです。

 **ザ・パック株式会社**

<https://www.thepack.co.jp>



印刷：西日本印刷工業株式会社 2008

THE PACK CORPORATION

CONTENTS

トップ・メッセージ	P.2
企業理念体系とSDGsのかかわり	P.3 ~ 4

01 環境への取組み P.5 ~ 8
事業活動に伴う環境負荷を削減することは、すべての企業にとって重要な課題です。CO₂排出量や廃棄物の削減など、さまざまな取組みを推進しています。

02 ザ・バックフォレスト環境基金活動 P.9
原材料の多くを紙が占める当社にとって、森林を守りながら資源を活用することが不可欠です。CSV活動の一環として、環境対応商品の販売額の一部を拠出し、森林保全活動を行っています。

03 社会貢献活動 P.9
地域社会の一員として、地域の皆様と信頼関係を築き、共に発展できるよう、モノづくり体験教室をはじめとする各種取組みを行っています。

04 環境対応商品の開発 P.10
地球にやさしい商品の研究開発を進めています。新商品の1つであるクラフトバイオを紹介します。

以下の項目は「CSR REPORT 2018」をご覧ください。

品質管理 コーポレート・ガバナンス / コンプライアンス 人材育成と職場づくり

編集方針

ザ・バックでは、CSR活動や報告のあり方(報告内容、データ・資料の収集方法等)について、3年に1度見直しを行います。そのため「CSR Outline 2020」では、重点的に取り組んでいる「環境への取組み」を中心に記述しています。その他のCSR取組み(品質管理・コーポレート・ガバナンス/コンプライアンス・人材育成と職場づくり等)については、「CSR REPORT 2018」でご覧いただけます。本レポートの発行目的は、株主・お客様・社員をはじめとするステークホルダーの皆様へ情報を開示し、ご意見をいただくことで、より深いCSR活動の推進に繋げていくことです。編集にあたっての主なポイントは、右記の3点です。

■ ザ・バックによる環境的影響の中で、特にステークホルダーの皆様からの評価や判断に影響を及ぼす重要な事象・データを優先的に報告しております。

■ 経営者のトップ・メッセージを通じて、ザ・バックが目指す企業像やCSRについてご紹介しております。

■ 社員教育ツールとしても役立つように編集しています。

【報告の対象期間】 2019年度(2019年1月1日~2019年12月31日)

【報告の対象組織】 ザ・バック株式会社の本社、営業所、工場

トップ・メッセージ

Top message

1878年(明治11年)に大阪にて木製衣装箱を製造する会社として創業した当社は、現在、全国的なサプライチェーン体制を構築する総合パッケージメーカーへと成長しました。昨今では、単にパッケージを販売するだけでなく、業務効率化、省人化、SDGs推進など、パッケージ面からお客様の事業をサポートするべく、各種課題に対するソリューションを提供しております。国内では成熟産業と言われる包装業界において持続的に発展していくためには、技術開発力、企画提案力の強化はもちろんの事、新たな需要や市場の開拓が不可欠です。このように業績向上に努める一方で、世界的に高まる企業・消費者の環境意識に対応していく事が求められています。当社は1993年から森林保全活動費用を拠出し、また、継続して環境対応商品及び新技術の開発などに取り組んでおります。今後も信頼される企業を目指して、企業の発展と社会貢献を両立していく所存でございます。

さて、この度2020年12月期~2022年12月期を対象期間として、中期経営計画を策定致しました。CSRに関連するため、ここにその一部を紹介させていただきます。

■2020年~2022年スローガン

『環境対応を見据えた経営』

「環境対応」とは自然環境のみならず、社会環境、職場環境など幅広い分野に対応する事を意味しております。

■SDGsへの取組み

1 フォレスト製品販売強化

販売額の一部をフォレスト環境基金として拠出、お客様と一緒に地球環境保護活動に取り組む

〈フォレスト製品売上高〉

2019年 15億円 → 2022年目標 18億円

2 Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) 認証製品の販売強化

森林保全に貢献していく

〈FSC® 認証製品売上高〉

2019年 29億円 → 2022年目標 32億円

3 CO₂削減への取組み

今後予定している本社社屋、大阪工場建替え時に、再生可能エネルギーへの転換を図る

4 女性活躍推進のための行動計画

正社員に占める女性の割合を25%以上にする 2019年 267名 21.0% → 2022年目標 320名 25%

管理職(課長以上)に占める女性の割合を10%以上にする 2019年 16名 5.7% → 2022年目標 30名 10%

当社は事業を通じて持続可能な社会への実現に貢献する為、以上4つのSDGsへの取組みを中期経営計画に取り入れました。2022年までに目標達成を目指します。

成長戦略及び投資計画を含む中期経営計画の詳細につきましては、当社HPに掲載している資料*をご高覧ください。

2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、国民生活、雇用、企業活動に深刻な影響を及ぼし、先行きの不透明な状況が続いております。環境配慮型のパッケージが求められる傾向は変わらないと考えておりますが、非常に速いスピードで社会が変化している為、市場の動向に注視しつつ、『環境対応を見据えた経営』を行って参ります。今後ともご支援の程よろしくお願い致します。



*当社HP (https://www.thepack.co.jp/) ⇒ IR情報 ⇒ IRお知らせ一覧 ⇒ 2020年2月25日付「中期経営計画」

ザ・バック株式会社
代表取締役社長

稲田 光男

企業理念体系とSDGsのかかわり

Corporate philosophy system chart & SDGs(持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals)

当社では、社是、経営理念をもとに様々な企業活動を行っています。これらの取組みを国連が提唱しているSDGs(持続可能な開発目標)の観点から整理しました。



企業理念体系	ザ・パックでの取組み	SDGsの持続可能な開発目標との関連 (○は関連する項目)																
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
コーポレート・ガバナンス (コンプライアンス) に関わる項目	「健康経営宣言」を発表し、定期的に健康診断とストレスチェックを実施している	○																
	持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等に関する研修を実施している		○	○					○									
	育児・介護支援を実施している			○			○											
	女性活躍推進のための行動計画を策定している			○			○											
	障がい者の雇用など、障がい者が社会へ参加する支援を行っている						○		○									
	安全・安心な労働環境を促進するために、研修や設備、マニュアルなどの整備を行っている						○											
	人が育つ職場づくり、安心して働ける給与や処遇、60歳定年後も見据えた制度設計を実施している																	
	年齢、性別、障がい、人種、宗教等によって、差別をしていない			○						○								
	ハラスメント行為があった場合、報告を受け、原因を追求し、再発防止策を施している			○					○								○	
	内部統制、内部監査を通じて賄賂の要求や支払がないか、監視している																○	
仕入先に対し「反社会勢力の排除に関する誓約書」の提出を要求している																○		
主力商品 ・紙袋・印刷紙器・段ボール ・フィルムパッケージ	プラスチックラミネートに代わる表面加工技術を活用している										○		○	○				
	食品用プラスチック包材に代わる機能性を付与した紙製包材を取り扱っている										○		○	○				
	発泡スチロールに代わる紙製緩衝材を取り扱っている										○		○	○				
	リサイクル可能な段ボール製収納什器を取り扱っている										○		○	○				
企画・提案 物流・生産	原材料使用量の少ない製品の提案をしている										○							
	包装資材を使用する環境でのエネルギー効率が良い仕組みの提供をしている										○							
	製品の生産において、紙・インク、その他の資源の消費を削減している										○	○						
	水の利用量を生産量に対応して削減している				○						○		○					
環境・品質 マネジメントシステム	有害な化学物質の利用を削減している				○						○							
	有害な化学物質を含む廃液を適切に回収・処理している				○						○							
	製品の生産以外での事業活動において、紙その他の資源の消費を削減している										○			○				
	CO ₂ 排出量(原単位)の削減をしている										○			○				
環境対応商品の開発・提供	太陽光発電のようにCO ₂ 排出の小さい再生可能エネルギーへの転換を進めている					○												
	FSC® 認証製品等の持続可能な原材料を調達している										○				○			
	アフターユースのできる製品の開発をしている										○							
	環境負荷の低い素材の開発と提供をしている										○				○			
ザ・バックフォレスト環境基金活動	CO ₂ を年間132t削減している												○					
	森林、山地生態系の保全や回復、劣化した土地・土壌の回復に取り組んでいる				○								○	○	○			
	生物多様性に配慮した樹種を植樹している													○	○			
社員のボランティア活動 (社会貢献活動)	文化遺産や自然遺産の保全に取り組んでいる														○			
	「モノづくり教育支援事業」で小学生に体験教室を開催している		○															
人材育成	事業所の周辺清掃を行い、地域の廃棄物を回収・処理し、快適な環境を保っている														○			
	職業能力を向上させるための研修を実施している		○	○														

01 環境への取組み

Environmental activities



当社は、全社で環境への取組みを促進しています。国内の全工場・事業所で2006年にISO14001の認証を取得し、CO₂排出量や廃棄物の削減、環境対応商品の開発など、さまざまな取組みを行っています。環境省の低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」にも参加しています。

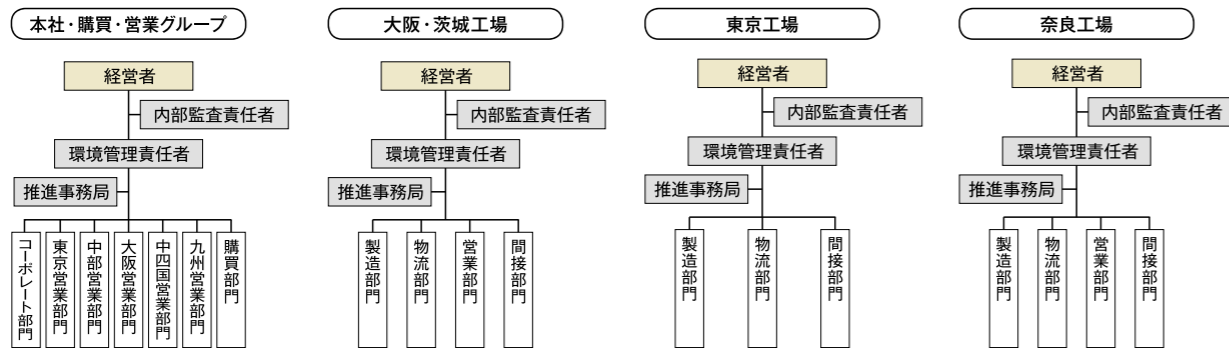
環境理念

私たちは 人と自然を愛し
夢のある未来をみつめ
かけがえのない地球を大切に
広く社会に貢献します

環境基本方針

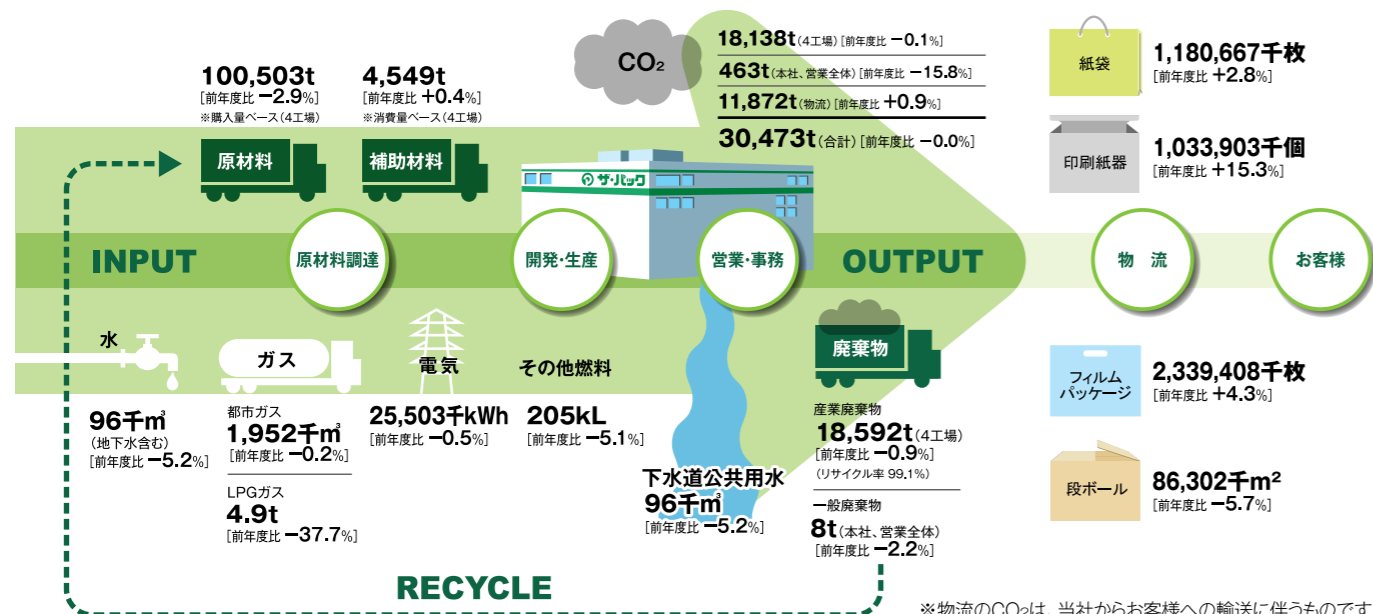
1. 安全と環境に配慮した商品開発と技術開発を推進します。
2. 資源、エネルギーを大切に、廃棄物の最小化とその再生利用に努めます。
3. 環境活動を通じて、顧客満足を目指してまいります。
4. 社会、地域における環境保護運動に積極的に参画します。

環境マネジメント組織体制



環境負荷の全体像

生産活動全体における環境負荷を把握し、負荷の低減に向けて取組んでいます。
※4工場(大阪工場、奈良工場、東京工場、茨城工場)及び本社・営業グループのデータを記載しています。



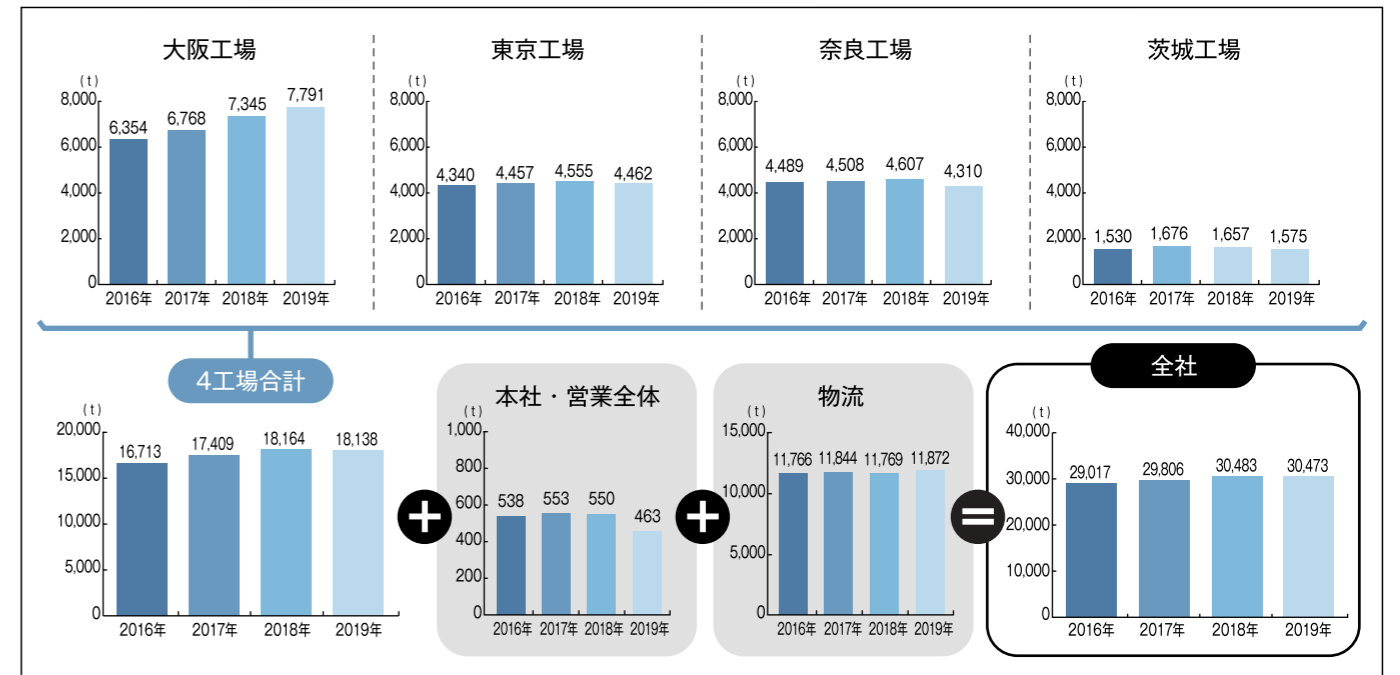
※物流のCO₂は、当社からお客様への輸送に伴うものです。

量的変化

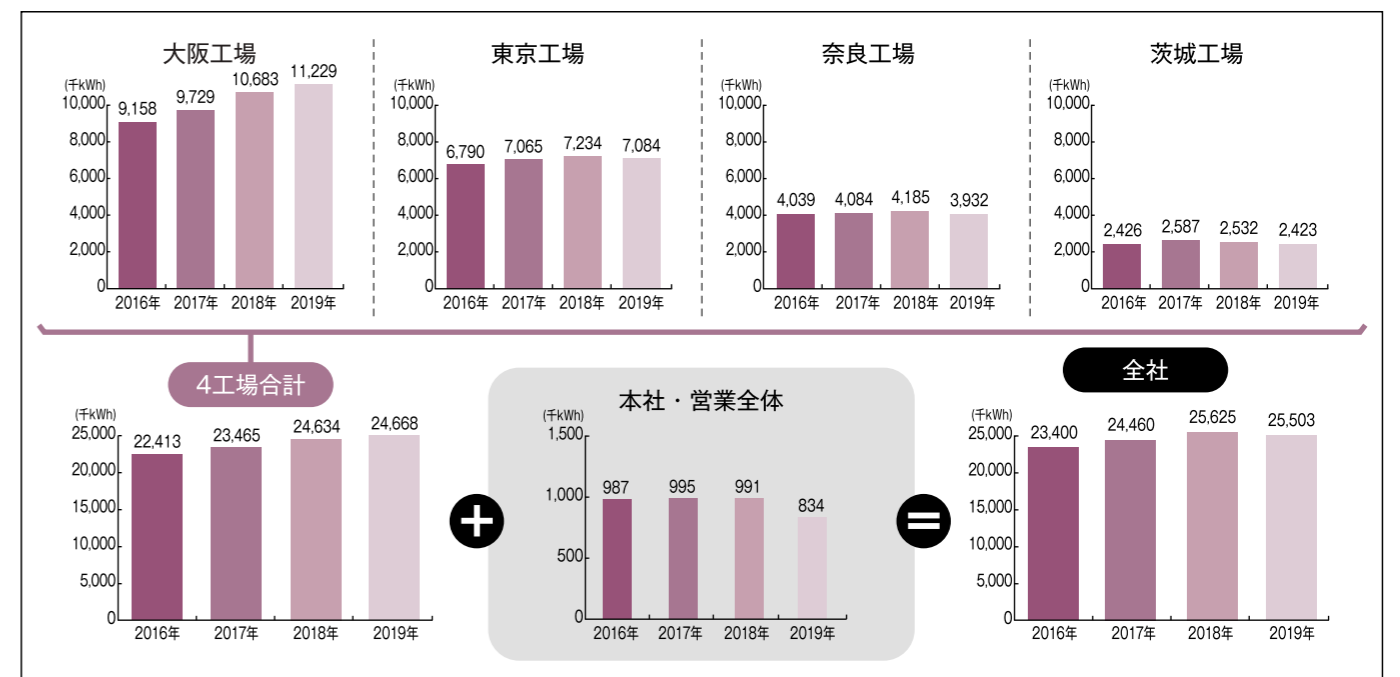
本社・営業グループおよび4工場では、省エネ活動や高効率機器の導入などによるCO₂の削減に取り組んでいます。また、産業廃棄物の削減や、リサイクル率の向上にも取り組んでいます。

2019年度はCO₂排出量増加、CO₂排出原単位は向上しました。産業廃棄物の排出量は増加していますが、リサイクル率は99.1%、廃棄物の削減を進めています。

CO₂排出量



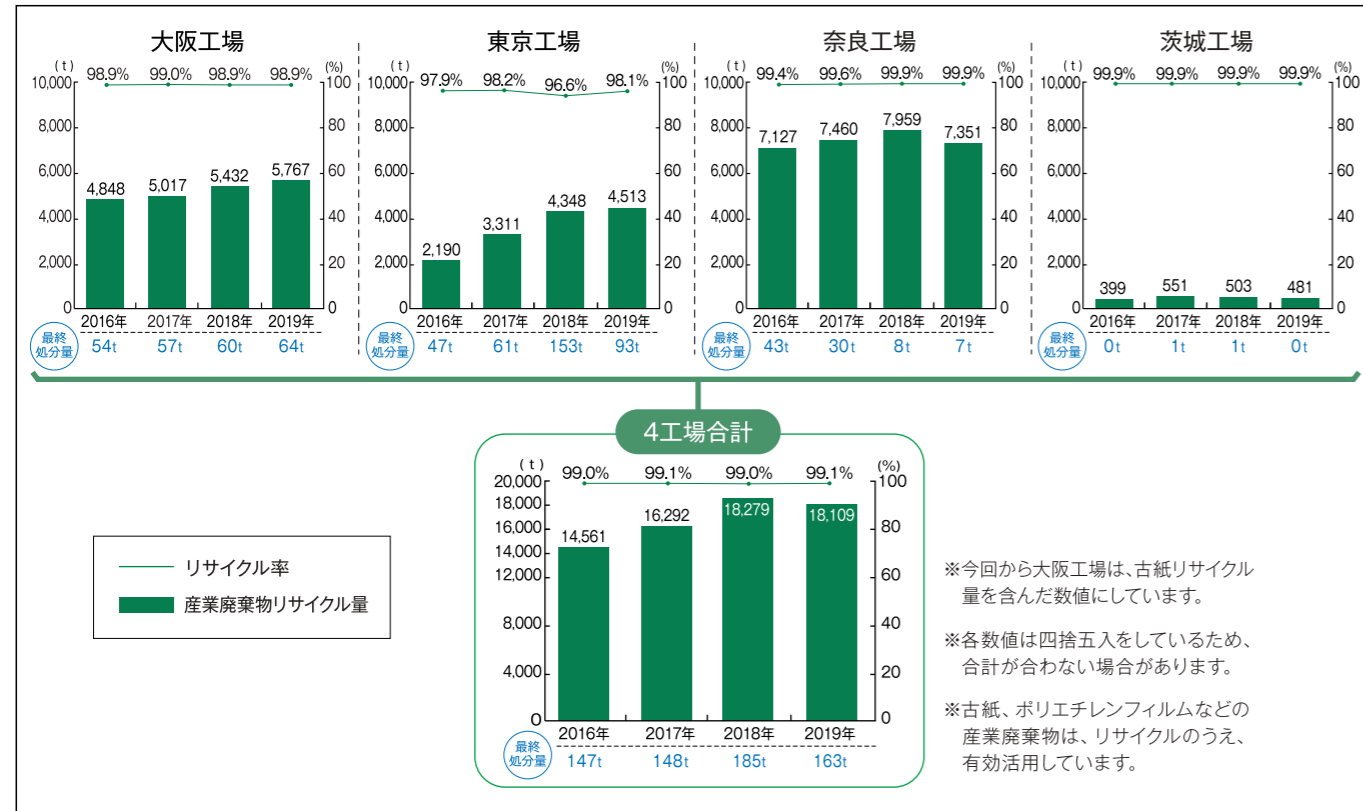
電気使用量



※自社で設置している太陽光発電による発電量は含みません。

産業廃棄物のリサイクル状況

4工場合計の2019年度リサイクル率は99.1%です



化学物質の適正管理

製造工程で使用する化学物質について、PRTR法にもとづき適正に管理するとともに、生産量に対して排出量の削減を進めています。2019年度はフタル酸エステル類を含む接着材の使用を減らしたため、化学物質の取扱量は前年より大幅に削減することができました。

PRTR法に定める第一種指定化学物質の取扱い量(4工場合計)

対象化学物質	含まれる材料	2016年	2017年	2018年	2019年
トルエン	接着剤	0.9	0.9	1.0	0.8
キシレン	接着剤	0.0	0.0	0.0	0.0
フタル酸エステル類	接着剤	1.9	1.6	1.2	0.5
ハウ酸及びその化合物	接着剤	1.5	1.6	1.7	1.7
モノクロロベンゼン	接着剤	0.6	0.6	0.8	0.8
ジクロロメタン	オフセット印刷洗浄剤	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ジクロロプロパン	オフセット印刷洗浄剤	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		4.9	4.7	4.7	3.8

環境目標

本社・営業グループ、工場ごとに、環境目標を設定しています。2019年度の目標と結果は以下の通りです。

2019年度 環境目標		実績	結果	
本社並びに営業グループ	フォレスト商品(※)の拡販	フォレスト商品の売上高を2013年に対して17%向上させる。	+17.0%	○
	廃棄物の削減	事業系一般廃棄物排出量を2013年に対し、38%削減する。	-38.0%	○
	省エネルギー活動の推進	電気使用量を2016年に対し、2%削減する。	-25.7%	○
	森林保全活動	森林保護運動を毎年6回実施する。	4回	×
大阪工場	環境に配慮した素材・加工技術の開発	毎年3件開発する。	3件	○
	省エネ	CO ₂ 排出原単位の削減 対前年で、1%削減する。	±0%	×
東京工場	省エネ	CO ₂ 排出原単位の削減 2012年に対し25%削減する。	-30.0%	○
奈良工場	省エネ	CO ₂ 排出量(原単位)の削減 対前年0.5%削減する。	+2.9%	×

※バガス、フォレストライト、カスタードカラー、シュガーブラウン、バイオロープ等を使用した商品は、ザ・バック フォレスト環境基金対象のフォレスト商品です。

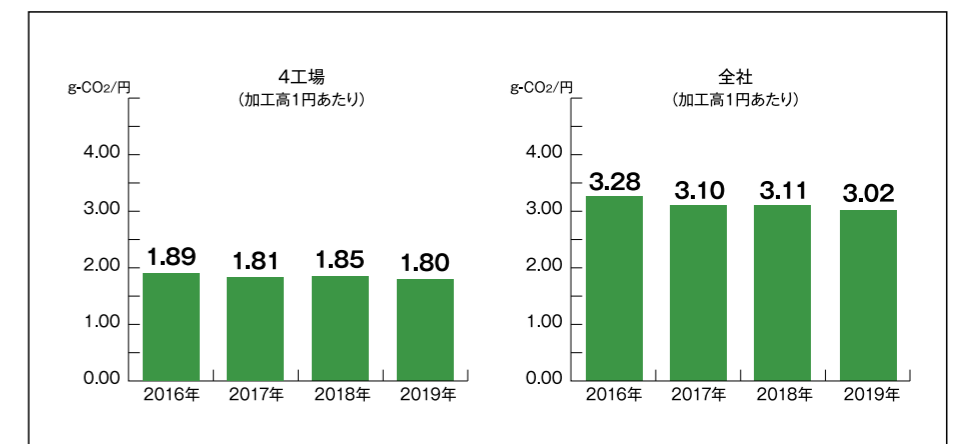
CO₂削減活動

2010年よりCO₂削減活動キャンペーンを全社で実施し、CO₂排出原単位の削減に取り組んでいます。

CO₂排出原単位とは

一定の企業活動を行う際に排出されるCO₂の量を指します。当社では、国内工場での加工高と、国内工場・本社・営業全体でのCO₂排出量から算出しています。売上や生産量の変化に影響されないため、一般的に省エネルギーの指標として使われています。

CO₂排出原単位

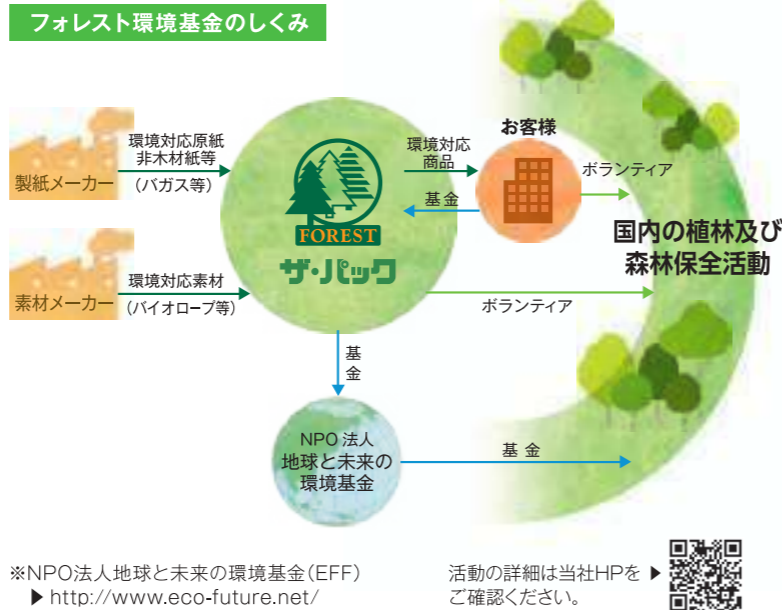


02 ザ・パックフォレスト環境基金活動

Forest conservation activities



1993年から環境対応商品を開発し、販売額の一部を森林保全活動費用として拠出しています。2000年には独自の「フォレスト環境基金」を設立し、植林地にて植樹や間伐を行うボランティア活動を開始しました。基金の一部を苗木等の購入費用に充て、委託先であるNPO法人地球と未来の環境基金(EFF)*と協働で、年に数回、活動を行っています。現在、植林地は全国8か所あり、当社社員だけでなく、お客様、一般の方々にも参加して頂いています。また、お客様のSDGsへの取り組み支援として、希望される森林保全活動等をコーディネートすることもあります。今後も地域にあった森林保全活動を続けていきます。



これまでの活動の成果 (2019年末時点) ■参加者: 6,907人 ■植樹: 20,465本 ■CO2吸収量: 132.71トン/年 ※植林した木による1年あたりのCO2吸収量。

- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1号植林地
岩手県西和賀町(2001年6月植林開始) | 2号植林地
奈良県吉野町(2002年3月植林開始) | 3号植林地
沖縄県恩納村(2003年10月植林開始) | 4号植林地
広島県竹原市(2004年11月植林開始) |
| 5号植林地
千葉県君津市(2009年2月植林開始) | 6号植林地
大阪府高槻市(2009年11月植林開始) | 7号植林地
埼玉県日高市(2012年3月植林開始) | 8号植林地
大阪府四條畷市(2016年6月植林開始) |

03 社会貢献活動

Social activity



大阪工場の所在地である東大阪市は、全国トップクラスの工場数を誇り、社会を支える様々な製品が生産されています。市は「モノづくりのまち東大阪」を推進しており、NPO法人東大阪地域活性化支援機構に委託して、市内の小学生を対象に「モノづくり体験教室」を実施しています。当社は初年度2002年から、毎年約10校に社員が講師として参加しています。2019年のテーマは「紙袋製作教室」です。1枚の画用紙が立体的な手提げの紙袋になっていく体験を通じて、子供達にモノづくりの楽しさ、喜びを伝えました。今後も地域社会の一員として、未来を担う人材育成に貢献していきます。



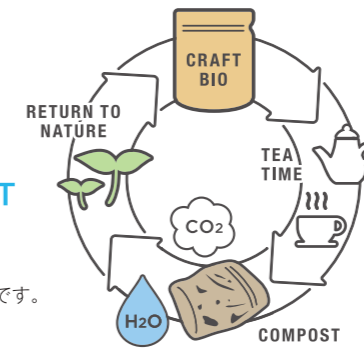
これまでの活動の成果 (2019年末時点) ■参加生徒数: 14,496人

04 環境対応商品の開発

Environmentally friendly product development



環境対応軟包装 クラフト バイオ



※クラフトバイオは当社の登録商標として出願中です。



生分解性を有する地球にやさしい素材で出来た「クラフトバイオ」を開発致しました。紙+セルロース+生分解性樹脂を使用しており、自然界に存在する微生物の働きで、水と二酸化炭素に分解されます。FSC認証(FSC® C020517)された紙を用い、酸素バリア性・水蒸気バリア性を有しており、食品向けパッケージの他、様々な用途でご使用頂けます。

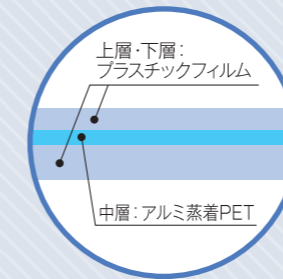
● 認証取得マーク



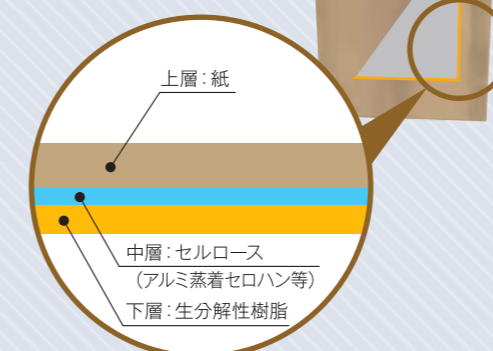
(FSC® C020517)

● 材質構成

一般的な従来品の場合



クラフトバイオ

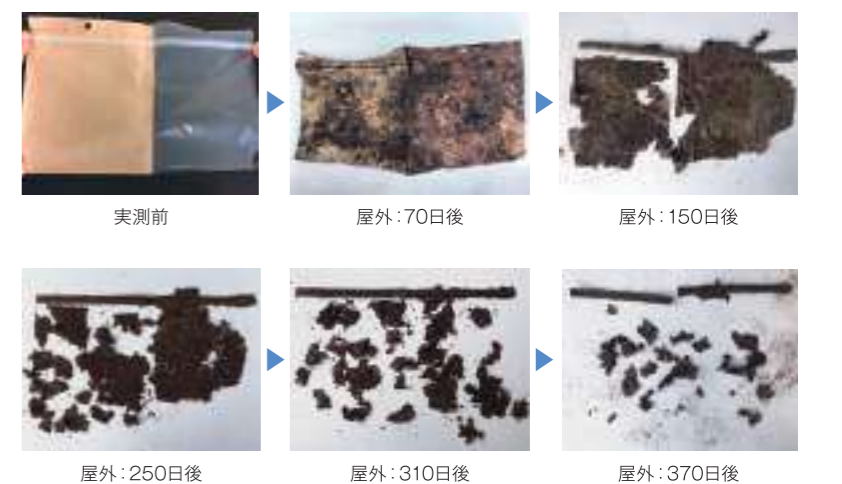


● 製品特長

- 3層構造** 紙・セルロース・生分解性樹脂の3層構造。
- 生分解性** 自然界に存在する微生物の働きにより水と二酸化炭素に分解。
- バリア性** アルミ蒸着PETと同等のバリア性能。

▶▶▶ バイオマス素材、生分解性も両立した食品対応パッケージ ▶▶▶

● 生分解の状況



※当社の実験により得られた結果であり、効果について保証するものではありません。